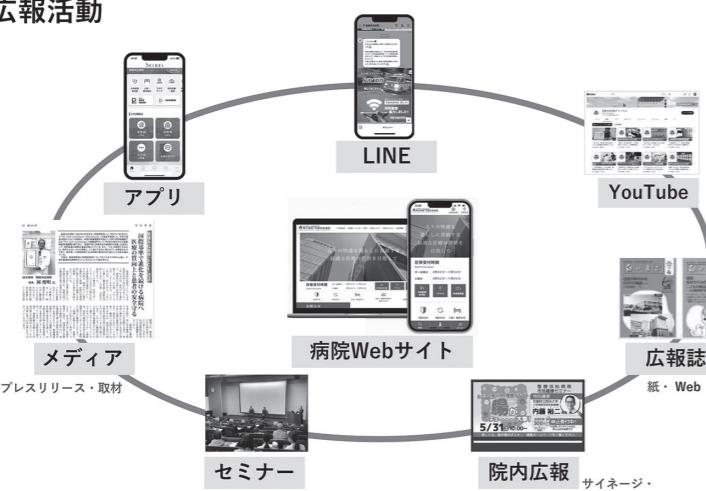


当院の広報活動



また、院内に媒体の存在や取り組みの周知を図りつつ、毎月全職員から情報収集を行うなど広報に対する意識改革を行っている。併せて、やりっぱなしの広報にせず、フィードバックや改善案の提案を行い、次回につながる信頼関係を

以下通り。

* **ウェブサイト**

アンケート調査結果
から、医師や診療科についてのニーズが高い
と分かっており、医師の顔写真や診療の様子
が分かる画像を大きく
配置した構成となつて

集患は順調に推移

より多角的にかつ効果的な広報を提案する
ことが可能な体制を構築している。

の認知や集患に確実につながっているという。

三つ目が、「三者で連携」。同院の場合、広報に携わるのは、学術広報室、経営企画室、地域医療連絡室になる。この3つの部署が集まり月1度、最新の情報を共有。

2016年より広報誌では伝わりにくい内容を動画化し配信。広報誌と連動させ、医師、看護師、医療技術職、事務職などを含む12人の広報委員会で製作している。

*LINE

2017年開始。広報誌とYouTube独自のコンテンツ「医師のメッグ」

集患のポイント

- 1 利用者・患者のニーズや改善点を把握
 - 2 病院一体で取り組む
 - 3 3つの部署が連携し、効果的な広報を実現

た媒体を戦略的に融合して情勢収集を「信していきたい」と意気込む。

多様な媒体を併用し情報発信を強化

正しい情報発信で認知度向上・信頼関係を構築

社会福祉法人聖隸福祉事業団総合病院聖隸浜松病院(静岡県浜松市、岡俊明院長、病床数750床)は、地域の中核病院として高度急性期医療を提供し、地域から信頼いただける病院であり続けられるよう努力を重ねている。そして、いざというときに選ばれる病院となるべく同院では多様な媒体の併用による広報活動を展開している。

社会福祉法人聖隸福祉事業団 総合病院聖隸浜松病院



北岡美穂氏

す。また、新型コロナ禍以降、市民公開講座の開催をはじめとする広報のオンライン化が進んだことにより、メディアを活用した広報と紙媒体などを組み合わせることにより、相乗効果が生まれ、より戦略的に広報でできていると考えています」

同院学術広報室の北岡美穂氏はこのように話す。北岡氏が掲げる広報戦略の成功のカギは、①現状把握・分析②チームで広報③三者で連携——にある。

を広報の方針や改善策に生かしている。
同院では、ターゲットに合わせた広報戦略を採用しており、主に見込み患者にはwebサイト、YouTube動画、新聞等の掲載市民公開講座を中心とし、既存患者にはwebサイト、紙の広報誌LINE、アプリを中心にするなど媒体のすみ分けを図っている。

は、同院広報委員会がその有用性を認めたところから2016年にスタート。副委員長でもある総合診療内科の本間陽一郎医師がプロジェクトの中心となり、「患者の想点で考える患者ファースト」の理念で動画制作を行っている。北岡氏は「先生方は非常に忙しいので、ご自身が出ても良いと思つていただけるような広報内容の提案に、YouTube動画について

存在になるためには、日ごろから正しい情報発信を継続して行い、認知度の向上、信頼関係の構築に

各広報媒体を連動し情報を伝達

とはいっても、個々の媒体で病院情報の発信を行うのではなく、webサイトに情報を集約している占いサイトは大きな特徴だ。